

季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌



美野里短歌クラブ

風鈴の清けき音と紫陽花にありし日の事蘇りたる
子育てや家事に追われし日常に気付いてみれば高齢者なり
うづくまるカエルが一匹洗い場に水をたらすとピョンとはねゆく
悲しみに耐えしわが身の去年忘れ今年は幸の光求めん
突然に雨風強く雷もすぐランタンの電池見直す

菱沼清子
菱沼友江
宇都宮和子
破谷きえ
白根沢清香

小川短歌会

平穏な日々を謝しつつ外つ国の激戦終息するはいつの日
庭に干す洗濯ものがびしよぬれに予報外だねにわか雨ふる
広辞苑つねに傍えに短歌詠むと励む智恵子さんしらかみのつや
雑草はところせましとふえ続き植えし野菜のしおれ目立てり
数独と本を読みつき夏バテの休養の日々これもまたよし

石田はる江
根本智恵子
幡谷啓子
佐藤正子
中根良子

玉里短歌会

注文の料理を運ぶロボットに可愛いねとか言えばセクハラ？
旅先のレストランにて県代表の球児の試合に声援送る
梅雨なくて猛暑が続く列島に秋の台風の心配募る
雨降らぬ日の続きいて汗だくになりて草刈る我が山羊のため
むし暑き夜は眠れず指折りて蒲団に腹這い短歌詠みけり

松田通喜
野口初江
石橋吉生
鶴町文男
正木敦子

みづうみ俳句会

ウクライナコロナも続く秋彼岸
亡き父母に庭花そなえ秋彼岸
湯上りにふらり庭先夜の秋
虫の音に気力もらいて湯船かな
祖の眠る線香の匂う秋彼岸

長島美奈子
長島久美子
三村れい子
榎本喜代子
長島昭

みのり俳句会

風鈴の時折眠さ誘ひある
リコーダーの音色騒がし夏休み
風鈴の音色にいつか寝てしまふ
朝取れの胡瓜に水の匂ひかな
健やかに百合の香匂ふ部屋にいて

友水清子
佐藤清子
島田草心
白根澤清
立原千代

櫂の会

正直な虫から先に鳴きははじめ
稲穂熟れ瑞穂の国へ手を合わせ
それだけでよし帰省の子のよく笑う
晩年という実りの秋や杖の夫
笑み葡萄両手に重き米寿かな

井坂あさ
石田敏江
網代奈津江
岡島禮子
木村小夜子

くるみ俳句会

少し秋置いて去り行く昨夜の雨
黙々とラジオ聴きつつ草を取り
青き空風に追われて翾雲
秋の宮宿木抱く神の杉
濡れながら草かき分けて採る茄子

福内邦誉
堀内いづみ
松崎淑子
安彦昭子
大曾根宣

たまり俳句会

常陸野の空晴れ渡り豊の秋
狛犬の玉くはへ居り神の留守
スーパームーン明日白内障の手術なり
浮かびくる白玉すくひ客を待つ
背丈ほどの玉転がしや秋晴るる

大石康子
れも智恵子
関玉知子
小玉富子
斎藤富子

小美玉川柳会

年金が線香花火の如く消え
海開きボインの波に目がおよく
草繁るここが私の舞台です
自家消費野菜づくりに玉の汗
山語るスーパージい足自慢

信正男
梶山平
下重悟史
大谷よし堂